

(別紙 2)

工事（業務）特別仕様書記載例

(抜 粋)

第〇章 環境との調和への配慮

本工事（業務）は、環境との調和に配慮することとする。

- (1) 特に配慮すべき内容は次表のとおりとし、この中で、実施困難若しくは変更が必要な場合、又はこれ以外で工事に反映可能な項目がある場合は、監督員と協議すること。
- (2) 受注者は、具体的な実施内容、方法等を施工計画書に含めて監督員に提出するものとする。
- (3) 受注者は、工事完成時に環境配慮の実施内容を「環境配慮実施報告書」にまとめ提出するものとする。

(例)

環境要素	環境配慮内容
大気環境	N0.5付近からN0.7付近に確認されている〇〇〇は、現況のまま保全し、工事で傷めないようにすること。
野生動植物	〇〇工区は、〇〇〇生息地となっているため、工事前に、幼虫を捕獲し、〇流側(約L=〇m)の箇所に移動すること。 移動時期：〇月上旬
水環境	〇〇工区の下流部に〇〇の飼育用の池があるため、コンクリート打設後1か月間は、仮設ポンプにより用水を供給すること。
景観	本施設の設計に当たっては、周辺の田園景観と調和するよう、建物の意匠を決定すること。
自然とのふれあい	本ため池は、堤体を遊歩道として利用しているため、歩行者の安全に配慮するとともに周辺の自然と調和した構造物とすること。

- ・ 環境配慮内容は、環境配慮調書に基づき具体的に記入すること。
- ・ 希少動植物については、生息・生育の具体的場所が特定されないよう配慮すること